

第5回定期総会報告

活動方針（応援団）

1. 宣伝活動などに役立つ技術サポートや講習会を実施

- プロジェクターを使った映写技術講習会
- ホームページ編集委員会の研修会実施
- メーリングの活用促進

2. 「通信員」制度創設

全員参加型による会の宣伝活動を実施する。

「通信員」を募り、地域で活動してもらう

- 基本として全員対象
(役員や他の制度と重複しない)
- 地域の活動状況や惜報をホームページ編集委員会に伝える
- 通信員の必要に応じて研修会や懇談会実施

3. 映写会等啓発活動

- YouTube や収録 DVD などの映写会の実施
- 今年度は特に「チャルカ」の上映会を実施

4. 物販活動

物販「夏季ソーメン」の取り組みを継続

(19年度末のちゃんぽん・皿うどん物販ご協力ありがとうございました。65,200円を納入)

応援団事務局

元気力ネットワーク事務所内

〒875-0023

臼杵市江無田14組

電話：090-3320-0640 (伊東携帯)

e-mail：itoto@e-bungo.jp

総会での質疑応答・回答等（抜粋）

Q、Eさん 会議のときの交通費等は出ているのか。

A、事務局 出していないが、他県へ行く等、高額になるものは出している。交通費を全額出すと立ち行かなくなる。会議に参加はボランティア精神です。

Q、Fさん 予算案について。会計監査を務めて実情がよくわかった。会は個人の集まり。日本の原発をとめる活動。少なくとも最初に1万円払ったら、以降要らないというのが腑に落ちなかった。あれから4年。近い将来、必ず財政逼迫。原告であろうと応援団であろうと、会費を払うのは当然。

A、事務局 予算については、来年度非常に厳しい。ベースになるところの財政が厳しい。1年かけて皆さんと話し合って考えたい。原告になる時の1万円のうち、5千円が印紙、残りでニュース等発行している。

Q、Fさん 情宣活動について。この会について世間では「思想的背景を持っていてハードルが高い」等と耳にする。会のあり方をできるだけ透明にして欲しい。私が原告申し込みをしたとき、前事務局長に「政治的な背景あるか」と聞かれ、「ない」と答えた。どんな人が原告になっているか、HPで原告の声を載せてはどうか。大分県民にアナログ的にもっと伝えるとよい。

A、宇都宮応援団代表 新リーフレットに当初の気持ちを載せている。どうしても思想的、政治的に色のついた人が多いと思われがちだから、あえて母親としての思いを述べた。応援団の活動として物販をしている。それは財政面を支えることにもなるが、団員をふやす活動ができていなかった。

Q、Mさん 原告が応援団に入っただめなのか。自分は毎年3千円カンパしている。

Q、Mさん 「裁判ニュース」は、アンケートをとってネットで配布という形にしては。私はネットで構わない。

A、事務局 検討課題とさせていただきます。

Q、Iさん 「6 他地域の伊方原発をとめる訴訟団との情報交換、交流をはかります」に県内の他団体も加えてほしい。

A、事務局 努力する。

Q、Tさん 新リーフレット、非常によくできている。プレートテクトニクス（学説）ができる前に原発ができた。熊本まで中央構造線が続いている。このちぎれている部分は？三次元？別府の京大（地球熱学研究施設）ですごくやっている人がいる。

A、事務局 イラストを新たに描いてくださった高木章次さん（薩摩川内市在住）によるものだ。

Q、UDさん 最近、防災会議では中央構造線と別府一島原地溝帯はつながっていると公認された。僕は何となく遠巻きに応援団としてのかかわり方をしている。2011～14年まで一緒に活動した人が余りいない。小さな集まりをたくさん持つとよい。「311いのちのわ」実行委員会は11～5月の活動で、半年は活動していない。そうすると、この会が原発反対運動の中心にならざるを得ない。